



能勢 秋吉
議員

さんむ医療センターについて

問 緩和ケア病棟の稼働率はどうか。

答 保健福祉部長 平成26年度は72・2%です。

問 平成25年度、26年度の内科、その他の外来患者の人数はどうか。

答 保健福祉部長 平成25年度の外来内科の患者延べ人数は、3万1千337人、平成26年度の外来内科の患者延べ人数は2万9千236人です。また、内科以外の平成25年度の外来患者の延べ人数は、10万2千400人、平成26年度は8万6千656人です。

問 平成25年度、26年度の入院患者の人数はどうか。

答 保健福祉部長 平成25年度、26年度の入院患者の人数は、市内が59件、市外が92件とのことでした。

問 市は県市長会を通じ、医師及び看護師の確保に係る財政支援を国に対して要望したが、市単独での要望か。

答 市長 市単独の要望ではありません。

問 山武市長生夷隅医療圏の自治体と協議し、(仮称)周産期母子医療センター設置等の調査委員会等を立ち上げてはどうか。

答 市長 産婦人科の危機的な状況については、それぞれの首長が単独で、関係するところに強く要望しています。郡内に新たな産婦人科医を1人も配置できない状況で、さんむ医療センターで、1人で正常分娩を扱っています。単に産婦人科医を他の地域から集めてくるということについては、ほとんど現実味がなく、どこも成功していません。

問 産科について、市と市外での分娩数はどうか。

答 保健福祉部長 さんむ医療センターでの出生数は、平成25年が156件、平成26年が151件。内訳は、平成26年は、市内が59件、市外が92件とのことでした。

問 医療圏としてまとまり、県等に要望することも1つの手段ではないかと思うがどうか。

答 市長 医療圏で要望して、市の実情が変わるとは思えませんので、

現在、そのような考え方は持っていない。

て協力をいただいたという経緯もあり、行政財産から普通財産への移行は、当初の目的を廃止することにもなり、地元の意向にそぐわないものと考えています。

日向の森活動計画について

問 日向の森は行政財産か、普通財産か。

答 総務部長 全て行政財産です。

問 普通財産にする方法はないのか。

答 総務部長 日向の森は、合併前の旧山武町が公園用地として取得した経緯があり、将来にわたって公園としての土地利用をしていくと、議会で議決しています。また、地域の方々には、自然を生かした公園整備を目的に、用地買収に関する計画です。

今後の全体の利用計画はどうか。有効活用という考えはないか。

答 経済環境部長 ワタミ株式会社、NPO法人リターン・トゥ・フォレストライフの今年度の11ヘクタールに対する計画を報告します。今年度は、日向の森を中心に活動計画が提出されています。6月から来年3月までの間に、下草刈りまたは間伐作業など16回の活動に、240名が参加する計画です。



さんむ医療センター